



# P44 Magnum

ユーザーガイド

Version 1.0

# Foreword



すべては P42 のコアサチュレーション回路を手ごろな価格で多くのユーザー層に広く提供しようという意図から始まりました。ゴールは、既存のコードを単にリサイクルして新しいグラフィカルインターフェースを追加し、それを新しいものとして提示することではありませんでした。運命は自分で進む方向を持っていました。最初に P42 Jr という名前で始まったこのプロジェクトは、P42 Climax から派生して、迅速に独自のアイデンティティ、スタイル、ワークフローを確立しました。前のモデルには依存せず、独自のアイデンティティを求め、その結果、P42 Jr は P44 Magnum という名前を授けられました。こうして新たなスターが生まれました。

Magnum は、サウンドを生み出すことが好きで、その内部から混沌を生み出すために新しいアプローチが必要でした。課題は Pulsar Modular が以前にクリッパーの領域に進出したことがなく、不快なガラス質のような結果が望ましくなかったことです。そこから不快な音やガラス音を生み出さないクリッパーを設計するための探求が始まりました。新しいクリッパーデザインが完成しシームレスに統合された後 Magnum は本当の声を見つけ、その本来の特性を明らかにし、何よりも、子グマがアルファになるとどれだけ強力になるかを示しました。

P44 Magnum を使い始める際のアドバイスは、軽率にアプローチせずに、積極的に進んでみることです！

Pulsar Modular – The sound is unbelievable.

**MOD - モディファイ回路**  
代替シングネチャ回路設計  
を利用します

**プリセットブラウザ**

**A/B 比較**

**オプションメニュー**  
About / License Status / User Guide /  
Options and Preferences

**バイパス**

**極性反転**

**OOMP**  
雷鳴音

**A-11/12J Transformer**  
受け継がれる音楽の本質は、弟(てい)  
の血を通じて流れ、説明と要約を通じ  
て一子相伝を繋ぎます。しかし、弟は  
自分自身の旋律を紡ぎ、師の優れた楽  
曲の足跡を単になぞる存在ではないこ  
とを証明します

**POOMP**  
打撃音

**INPUT**  
SATURATION を INPUT DRIVE と  
OOMP の間に配置する  
(OUTPUT の選択は解除される)

**INPUT DRIVE - Input Gain**  
コア回路を上限許容範囲まで駆動させ、  
内部で数段の高調波を生み出します

**OS - オーバーサンプリング**

**デュアルモノ**

**CLIP**  
クリッパーと関連するコン  
トロールを有効にします

**SATURATION**  
高密度化および接着効果  
をもって飽和させます

**OUTPUT**  
SATURATION を POOMP  
と SWEET の間に配置します  
(INPUT の選択は解除される)

**SWEET**  
この高域エンハンス機能は単一のノブ  
に集約されていますが、複雑さと高度  
な機能が裏に隠されています

**MIX - Mix Wet / Dry**  
O<sub>2</sub> の処理前に Dry 信号と Wet 信号の  
比率を調整できます

**O<sub>2</sub>**  
音を活性化させるために設計された  
ユニークなシングネチャ回路


**SMO Positioning Switch**  
MAIN OUT に対する  
SWEET>>MIX>>O<sub>2</sub> の位置を変更  
PRE = MAIN OUT の前の SMO  
POST = MAIN OUT の後の SMO


**MAIN OUT - Main Output Level**  
クリーンアウトプットゲイン


**Delta Solo**  
Wet と Dry の違いを  
単独で再生します

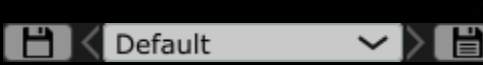
**Save** - 現在のインスタンスのサイズ  
と位置を保存します




 バイパスはオーディオ信号を処理せず通過させます。

 オーディオ信号の極性を反転させます。

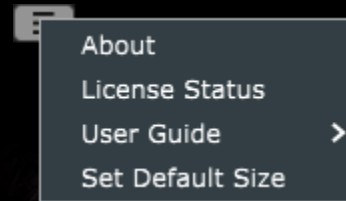
 **MOD MOD** P44 はトラック上で有効になっているだけでハードウェアデバイスのように、P44 を通過するだけでオーディオと融合する音響の特徴を示します。MOD ボタンはテープのような音響的特性を付与する代替回路設計を設定します。

 プリセットブラウザを使用してプリセットを閲覧、読み込み、保存します。左の保存アイコンをクリックして現在のプリセットを上書き保存するか、右の保存アイコンをクリックして新しいプリセットを作成できます。左の保存アイコンの隣に赤いアスタリスク\*が表示され、上書きできることを示します。

ヒント: ソフトウェアを更新する際に、プリセットのインストールオプションが選択されていない場合、変更された工場設定プリセットは保持されます。これはデフォルトのアップデートバージョンインストーラー設定です。

 **A B** A/B は、異なる設定を一時的に保存し、迅速な比較を可能にします。矢印ボタンを使用して、アクティブサイドの内容を非アクティブサイドへコピーできます。

ヒント: 設定を比較する際、A/B ボタンをクリックするとトグルが実行されます。これは単一のボタンですので、マウスを交互に動かす必要はありません。これにより、どちらが選択されているかを知らなくても比較が容易になります。最大の集中力を発揮するために、目を閉じた状態で行うことをお勧めします。




## オプションメニュー

**About** – バージョン番号またはデモの有効期限日を確認できます。

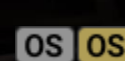
**License Status** – ライセンスを管理し、アップグレードオプションを解除します。

**User Guide** – ユーザーガイドが開きます。

**Set Default Size** – このオプションを選択すると、現在の P44 インスタンスのサイズを、P44 のすべてのインスタンスのデフォルトサイズとして適用できます。

 デュアルモノ機能は左右チャンネルでアナログエミュレーションされたチャンネルの許容差を有効にします。ステレオ操作の代替としてこのオプションを有効にして自然な広がりやダイナミックな音像を体験できます。

注: モノトラックではデュアルモノを有効にできません。

 オーバーサンプリングにより P44 はホストのサンプルレートの倍数で動作するオプションが可能になります。OS をオフにすると P44 はホストのサンプルレート (x1) で動作します。

オーバーサンプリングがオンの場合、異なるオプションが利用可能になります。以下に、VINTG モード、INTEL モード、および HD モードの説明をご覧ください。

ヒント: オーバーサンプリングされた信号が常に優れているとは思わないでください。各オプションを試し、耳を使って判断してください。44.1 Hz または 48 Hz のサンプルレートで x1 で作業する場合、エイリアシングが一部存在することがありますが、これは非常に多くの場合、魅力的な音色を作成します。

注: CLIP は常に x4 でオーバーサンプリングされ、OS の選択や状態に影響されません。

**VINTG** VINTG (ヴィンテージ) モードはホストのサンプルレートの倍数である 2 倍 (x2) で動作します。上部の周波数に滑らかなフィルタを適用してクラシックなロールオフ特性を維持し、エイリアシング信号をフィルタリングせずに残すことができます。これにより滑らかなヴィンテージのトップエンドとモダンな不調和な歪みを創造的に組み合わせる能力が提供されます。これは 44.1 kHz または 48 kHz のホストサンプルレートでオーバーサンプリングを行う場合に最も効果的です。

**INTEL** INTEL (インテリジェント) モードはホストのサンプルレートの倍数である 2 倍 (x2) で動作します。完全な周波数スペクトルをスキャンしエイリアシング信号を減衰させます。この高度なフィルタリングによる処理量は信号と P44 がどの程度プッシュされているかに大きく依存します。

**HD** HD モードは内部サンプルレートが 384 kHz で動作します。INTEL モードと同じ完全な周波数スキャンフィルタリングを使用します。高いサンプルレートとフィルタリングメカニズムにより CPU 負荷が驚くほど効率的な高品質のオプションとなります。このモードはマスタリング業務やミキシング時のキートラックにも同じく適しています。

HD オーバーサンプリング時 P42 は次の動作をします。

- 44.1 および 48 kHz の場合、x8 でオーバーサンプリング
- 88.2 および 96 kHz の場合、x4 でオーバーサンプリング
- 192 kHz の場合、x2 でオーバーサンプリングし、INTEL および VINTG オプションを有効にします
- 384 kHz の場合、オーバーサンプリングオプションを無効にします

**CLIP** **CLIP** 0.0 dBFS **GR** 0.0 dB **OUT** 0.0 CLIP はクリッパーとそれに関連するすべてのコントロールが有効になります。デジタルクリッパーに満足していなかった設計者によって作成されたこのクリッピングルーチンは非常に高品質です。この非凡なクリッパーは、音色、イメージング、堅牢性などソース特性の整合性を、他に類を見ない品質で維持します。

CLIP の右に dBFS スライダーが表示され、クリッピングのしきい値を最大で -18 dBFS に設定できます。その右に GR 表示があり、クリッピングされる信号の量を表示します。OUT スライダーを使用して、-18 dB から 9 dB までのクリップ後のレベル調整が可能です。

CLIP は P44 の信号チェーンの最後にあり MIX ノブの後に処理されます。OS ボタンの状態にかかわらず常に 4 倍 (x4) のオーバーサンプリングが適応されます。

ヒント: CLIP は MIX の後の信号チェーンの最後に配置されているため、完全に Wet な信号、完全に Dry な信号、MIX ノブで調整された Wet/Dry ブレンド信号、をクリップするのに利用できます。MIX ノブが 100% ドライに設定されている場合、P44 は実質的に「単体クリッパー」として利用できます。



ヒント: **CLIP** を有効して非常に攻撃的な **SATURATION**、**INPUT DRIVE**、他のパラメータを使用して信号をクリップさせ、**OUT** スライダーを下げてみてください。その結果、爆発的かつ美しい、ブルータルな信号が得られることでしょう。

ヒント: **CLIP** を使用して高音域が少し失われる場合、**SWEET**、**O<sub>2</sub>**、またはその両方を使用してリカバーしてみてください。



**OOMPH** は低域で感じる力強い鼓動をもたらし、赤外線からサブベース領域までの帯域に広がります。

近年、現代のコミュニケーションチャンネルで広まった誤った迷信は、すべてのミックスの低音をカットすることを奨励してきました。私たちはそれを受け入れて、少しだけ **OOMPH** を加えることを提案します。

**OOMPH** は、選択した中心点に理想的な **Q**、カーブ、振幅の組み合わせをもたらすように、設計者の耳で調整されています。

**OOMPH** の左にあるスムージングスライダーはブーストされた周波数の下限を調整し、回路の効果を緩和して引き締めます。最も低い位置では効果はありません。スライダーを上移動すると、輪郭がより顕著になり **OOMPH** のさらなる緩和と引き締めが生じます。

緑のライトで有効または無効にできます。

ヒント: **OOMPH** と **POOMPH** の両方は非線形プロセスであり、入力信号に対して非静的な反応をするため、プラグインの入出力で正確なゲインマッチングができない場合があります。

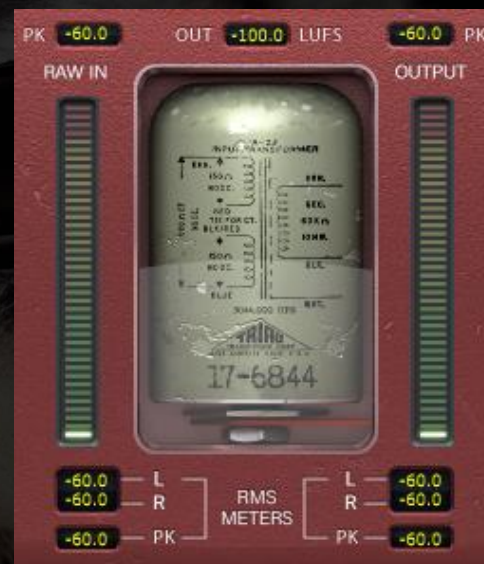


**POOMPH** は **OOMPH** の一段上の帯域を示します。**OOMPH** が振動をもたらすのに対して **POOMPH** はパンチをもたらします。**POOMPH** はサブベース領域からベース領域の下限までであり、感じられる音と聞こえる音の両方を示します。

**OOMPH** および **POOMPH** のカーブの構造とスムージングスライダーの設計の説明は上記の **OOMPH** セクションと一貫しています。

緑のライトで有効または無効にできます。

ヒント: **OOMPH** と **POOMPH** のカーブは交差するクロスオーバーポイントに応じて興味深い相互作用を及ぼします。時には異なるポイントで補完的なバンプが発生し、時には累積的な反応があります。実験して実際に聞こえるものを信用してください！



メータリングは **LUFs**

(Full Scale に対するラウドネス単位) **dBFS PK**  
(Full Scale に対するデシベルピークホールド)

**RMS / PEAK RMS** (平均二乗平方根) パラメーターとそれに関連する計測データを表示します。

トップの **PK** (ピークホールド) 計測データは最も高い **RAW IN - OUTPUT** のピーク値を保持します。

LUFS OUT 計測データは、短期的な LUFS を示します。

バーメーターは、RMS / PEAK RMS 計測データを表示します。

下部のメーターは LR (左/右) の RMS 平均値と PK RMS (RMS ピークホールド) の RAW IN - OUTPUT 計測データを表示します。

DAW が停止/再開するとすべての計測データはリセットされます。



**SWEET** は、荒々しさを一切感じさせないように設計されたカスタムデザインの高周波フィルターエフェクトです。注意深く耳を傾けてみてください。高音がすべての方向に広がっていくのを感じるでしょう。これは単なるカーブの組み合わせではありません **SWEET** の右側にある **FINE** スライダーは曲線の形状に影響を与えずに回路のベルフィルター部分の振幅を微調整できます。

ヒント: 高周波共振を切り抜くオートスムージングスタイルのプラグインを使用している場合、**SATURATION** と **SWEET** の組み合わせを使って除いたものへ更に追加の要素を注入し、より引き立てを行ってみてください。



**MIX WET/DRY** ノブは、処理された Wet 信号に未処理の Dry 信号をブレンドします。

注: **MIX** は常に **SWEET** と **O2** の間に存在します。Wet/Dry 信号はプラグインデザイン全体の整合性と意図を保持しつつ **O2** に供給される必要があります。



**SMO Positioning Switch** は、**MAIN OUT** ノブに対する **SWEET >> MIX >> O2** コントロールの位置を変更します。**POST** に設定されている場合 **SWEET >> MIX >> O2** は **MAIN OUT** の後に配置されます。**PRE** に設定されている場合、**SWEET >> MIX >> O2** は **MAIN OUT** の前に配置されます。

注: シグナルフローダイアグラムはこのガイドの最後に記載されています。



**O2** は、オーディオ信号を元の音の制約を超えて膨張させる効果を持つユニークな回路アルゴリズムです。この感覚は、オーディオに長く深い、空気を含んだ息を吹き込むようなものです。

緑のライトで有効または無効にできます。



**INPUT DRIVE** ノブはトランスに追加の入力ゲインを送り込み、偶数の高調波を増加させます。これを **SATURATION** スライダーと一緒に使用して、素材に合った理想的な高調波バランスを調整します。

**INPUT DRIVE** を調整する際に **Shift** キーを押すと **MAIN OUT** が自動的に補正されます。

ヒント: **INPUT DRIVE** を上げて **MAIN OUT** を下げるだけでオーバーになることなく、どんなオーディオにも生氣と開放感をもたらします。音本来のエネルギーを引き立て、命を吹き込みます。





もしサチュレーションポジションオプションが **INPUT** に設定されている場合、サチュレーション回路はシグナルパスの始めに配置され、その後のすべての処理がサチュレーションされた信号に適用されます。もし **OUTPUT** に設定されている場合、サチュレーション回路は **MAIN OUT** の直前に配置され、他のすべての処理は信号のさまざまな特徴をサチュレーションでプッシュする機会を得ます。

ヒント: **INPUT** は比較的原始的なサチュレーションに使用でき、その後、他の回路の独特の特性をブレンドして強化することができます。一方 **OUTPUT** は特定の特性によって駆動され、より強く焦点を当てたサチュレーションをもたらす可能性があります。

注: シグナルフローダイアグラムは、このガイドの最後に含まれています。



**P44 Magnum** のサチュレーションは鋭いデジタルピークを滑らかにし、ソースを密度を増し、圧縮のような効果を持っています。

ヒント: **Magnum** サチュレーションは中音域から上中音域にかけての信号を厚くし、強化する傾向があります。効果的なワークフローは、まずトランジェントピークと中音域のプレゼンスに焦点を当てながら **SATURATION** を調整し、その後 **OOMPH**、**POOMPH**、**SWEET**、**O<sub>2</sub>** を使用して信号をバランスさせることです。



**MAIN OUT** ノブはクリーンなゲイン調整のためのものです。**MAIN OUT** を調整する際に **Shift** キーを押すと **INPUT DRIVE** が自動的に補正されます。

ヒント: ドライブを上げて高調波の聴こえやすさを増す際に、**-24 dB** までの広範な減衰範囲は信号のゲインステージングに役立ちます。



**Delta solo** は、**Wet** と **Dry** の信号の違い（またはデルタ）を聴くことを可能にします。これにより **P44** が何を与えているか **Dry** との差分だけを聴くことができます。デフォルトではスイッチが点灯しておらず、オフになっています。



# Managing Presets

## 基本情報

インストール中にプリセットのインストールオプションを選択した場合、アップデートは元のプリセットを上書きしますが、カスタム名のついたプリセットはそのまま残ります。独自のプリセットを異なる名前で作成する場合は、保存オプション（プリセットブラウザの右側にあります）を使用するか、ソフトウェアを更新する際にプリセットのインストールオプションを選択しないように注意してください。

## プリセットのセクション

注意: 工場出荷時のプリセットは、プリセットをインストールするオプションが選択解除されていない限り、ソフトウェアのアップデート時に上書きされます。ユーザーが作成したプリセットは変更も削除もされません。

## プリセットの管理セクション

インストール時にプリセットをインストールするオプションが選択解除されていない場合、インストーラーは工場出荷時のプリセットを上書きします。ユーザーが作成したプリセットは変更されません。工場出荷時のプリセットに加えられた変更を保護し、アップデートの際にプリセットを保持するには、インストーラーを実行する際にプリセットのインストールオプションの選択を必ず解除してください。また、プリセットブラウザの右側にある'名前を付けて保存'オプションを使用して、別の名前で独自のプリセットを保存することを忘れないでください。

## プリセットのバックアップ

プリセットはオペレーティングシステムのファイルマネージャーを使用してバックアップおよび復元することができます。個々のプリセットファイルまたはプリセットフォルダ全体をお好みのバックアップ場所にコピー/ペーストするだけです。プリセットフォルダは以下の場所にあります。

### WINDOWS

'C:\Users\Public\Documents\Pulsar Modular\P44 Magnum\Presets'

### MAC OS X

'/Users/Shared/Pulsar Modular/P44 Magnum/Presets'

# General

## ファインチューニングモード

装飾キー (macOS では「control, option or command」、Windows では「CTRL」) を押しながら左クリックすると、ノブやスライダーを微調整することができます。または、装飾キーを使わずにノブやスライダーを微調整する場合は、右クリックします。

## P44 Magnum のアンインストール

### WINDOWS

- 「C:\Program Files\Common Files\VST3」の中にある「P44 Magnum.vst3」を削除してください。
- 「C:\Program Files\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins」の中にある「P44 Magnum.aaxplugin」を削除してください。
- 「C:\Users\Public\Documents\Pulsar Modular」の中にある「P44 Magnum」フォルダを削除してください。このフォルダにはユーザーガイドとプリセットが含まれています。「Pulsar Modular」の下に他のフォルダが存在しない場合、これも削除できます。

### MAC OS X

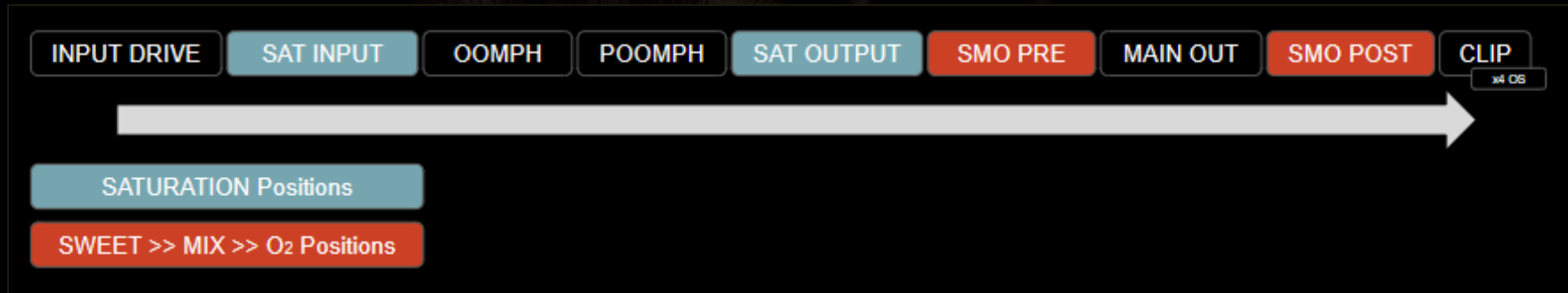
- 「Library/Audio/Plug-Ins/Components」の中にある「P44 Magnum.component」を削除してください。
- 「Library/Audio/Plug-Ins/VST3」の中にある「P44 Magnum.vst3」を削除してください。
- 「Library/Application Support/Avid/Audio/Plug-Ins」の中にある「P44 Magnum.aaxplugin」を削除してください。
- 「Users/Shared/Pulsar Modular」の中にある「P44 Magnum」フォルダを削除してください。このフォルダにはユーザーガイドとプリセットが含まれています。「Pulsar Modular」の下に他のフォルダが存在しない場合、これも削除できます。

## Restrictions

ユーザーは、PULSAR NOVATION LTD オーディオプラグインを、レンタル、リース、配布、再パッケージング (利益を得るかどうかにかかわらず) 逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニア、再サンプリング、インパルスレスポンスプロファイルの作成、または再記録、逆コンパイル、修正、全部または一部の改変を行うことはできません。



# Signal Flow Diagram



Developers: Pulsar Modular Team  
GUI Design: Max Ponomaryov / azzimov GUI design – [www.behance.net/azzimov](http://www.behance.net/azzimov)  
User Guide (EN): Kevin Eagles  
User Guide (JA): Naruki Konagaya

Inner Circle Testers: Leo Alvarez Robb Robinson  
Kevin Eagles Rozko Music (aka b0se)  
Matthias Klein

Beta Testers: All the wonderful Leap of Faith users! Thank you!

Please kindly report any errors or omissions in this user guide to [psupport@pulsarmodular.com](mailto:psupport@pulsarmodular.com).

To print this guide, we recommend using a free pdf color inversion service like <https://invert-pdf.club>.

Copyright 2023, Pulsar Novation Ltd.

P/N: 22723, Rev. 1.0

Pulsar Modular is a registered trademark of Pulsar Novation Ltd.

P44 Magnum is a plugin name owned by Pulsar Novation Ltd.

AAX and Pro Tools are trademarks of Avid Technology. Names and logos are used with permission.

Audio Units is a trademark of Apple, Inc.

VST is a trademark of Steinberg Media Technologies GmbH.

All other trademarks contained herein are the property of their respective owners.

Pulsar Novation Ltd.

Demircikara District, 1419 Street, Ocean City Block B, Floor 4

Muratpaşa, ANTALYA 07100 +90-530-111-4907

[www.pulsarmodular.com](http://www.pulsarmodular.com)